

11月の県内景況は、前月に比べ好転するものの、依然として業種間でばらつきがでている。小売・サービス業では年末商戦に期待。

情報連絡員による平成28年11月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は16.1%（前月比+3.4）となっており、「横這い」は35.7%（同+3.8）、「低調」とするところが48.2%（同-8.1）、業界全体の「景況感DI」は-32.1%（同+11.5）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「在庫数量」「収益状況」「雇用人員」の項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、木材木製品製造業が「晴れ」。卸売業、サービス業、建設業が「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、19.7%（前月比+8.8）と増加しています（好転の回答0件、やや好転の回答9件）（製造業6、非製造業3）。一方、変わらないが、46.4%（前月比-8.1）と減少しており、やや悪化、悪化の見込みも、33.9%（前月比-0.7）と減少しています。

平成28年11月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率93.3%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食品製造	0.00	-42.86	0.00	0.00	-14.29	-71.43	-28.57	0.00	-28.57	-28.57	0.00	-42.86
繊維製造	-50.00	-100.00	-50.00	-50.00	-50.00	-100.00	-50.00	-50.00	0.00	-50.00	-100.00	-50.00
木材木製品製造	75.00	50.00	25.00	25.00	0.00	25.00	25.00	25.00	25.00	25.00	50.00	25.00
鉄工機械製造	-20.00	-40.00	0.00	0.00	0.00	-20.00	-20.00	-20.00	0.00	-40.00	-20.00	-60.00
その他の製造	-57.14	-71.43	0.00	0.00	-42.86	-57.14	-42.86	-42.86	-28.57	-14.29	-28.57	-57.14
卸売業	50.00	-25.00	0.00	-25.00	0.00	-25.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	0.00	0.00
小売業	0.00	-12.50	25.00	12.50	-37.50	-37.50	-37.50	-50.00	-25.00	-25.00	-50.00	-62.50
商店街	-66.67	-66.67	-16.67	0.00	-33.33	-50.00	-33.33	-50.00	0.00	16.67	-16.67	-50.00
サービス業	0.00	20.00	40.00	40.00	20.00	0.00	0.00	-20.00	0.00	0.00	-20.00	-20.00
建設業	-40.00	-40.00	0.00	0.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00
運輸業	33.33	0.00	0.00	0.00	33.33	-33.33	0.00	-33.33	-33.33	-66.67	33.33	-33.33

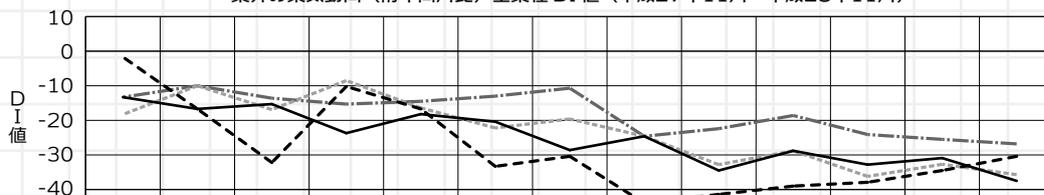
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- 曇り -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景況動向（前年同月比）全業種DI値（平成27年11月～平成28年11月）



— 業界の景況
- - - 売上高
... 収益状況
- · - 資金繰り

	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月	平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月	平成28年10月	平成28年11月
業界の景況	-13.3	-16.7	-15.3	-23.7	-18.2	-20.4	-28.6	-24.6	-34.5	-28.8	-32.8	-30.9	-37.5
売上高	-1.7	-16.7	-32.2	-10.2	-16.7	-33.3	-30.4	-43.9	-41.4	-39.0	-37.9	-34.5	-30.4
収益状況	-18.3	-10.0	-16.9	-8.5	-16.4	-22.2	-19.6	-24.6	-32.8	-28.8	-36.2	-32.7	-35.7
資金繰り	-13.3	-10.0	-13.6	-15.3	-14.5	-13.0	-10.7	-24.6	-22.4	-18.6	-24.1	-25.5	-26.8

食料品製造業

<漬物>

原料の価格は上がったが、野菜の価格高騰の影響もあり、漬物の売れ行きは好調だった。しかし、仕入れが高いため収益は厳しい。

<味噌醤油>

出荷量は9月から11月の3ヶ月間は、味噌醤油ともに昨年より減少。昨年比で味噌は5.5%、醤油は3.0%の出荷減と厳しい状況が続いている。原料加工米の内、特に等級外の米の価格が高騰の上、安定供給が困難となっている状況。また、加工食品表示の原料原産表示問題や、厚労省ではHACCPの問題など、当県業界を取り巻く諸問題が山積している。

<菓子>

餡の製造方法の見直しにより効率化を目指している。組合員の好みがあるので慎重に進めている。

<乾麺>

小麦の政府売渡価格改定で小麦粉価格が1月10日より値下げになる。強力系で25kg95円、中薄力系で125円の値下げになるが、トランプ大統領就任で為替がどう動くか心配である。

<酒造>

全国的に売上げが落ちている。東北6県の中でも福島県の落ち方が大きく、これから日本酒の需要期となるため、「日本酒で乾杯」を推進していきたい。酒造用原料米の供給も順調に進んでいるが、夏場の天候不順等で、品質が良くない酒米が目立った。

<食品団地>

今月も原油価格が少しずつ上がり始めている。消費についても停滞気味は変わらない状況である。今後も原油価格の高騰等、収益に影響が出てくる見通しで難しい状況が続いている。雇用においてもまだ改善が見られず、厳しい状況である。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

川下の小売店、百貨店等、昨年対比70~80%程度に留まっているため、秋冬物の動きが悪い状況。

木材・木製品製造業

<製材業>

山からの丸太出材は天候が安定していることから増加しており、価格低下が懸念されたが、冬を前に地元工務店の引き合いもあり、製材品需要が旺盛で一部品薄感もあることから価格は上昇傾向にある。

<外材輸入>

新設住宅着工数は好調に推移しており、製材品の荷動きは活発になってきている。年内いっぱいはこの状況が続くものと思われる。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

紙器段ボール業界は、まだまだ続く風評被害の影響で販売不振に苦しんでいる。段ボール箱業界も現在、多角経営を構築しており、他業界と連携して4月~8月の落ち込みを予測してカバーするという話し合いも進んでいる。

印刷業

<印刷>

復興需要に落ち着きが見られ、依然として景況感にやや陰りが感じられる。

窯業・土石製品製造業

<陶磁器>

客の入り込みが少ない。

<碎石>

(県北地区)

1	当月売上数量	前月比	約3%減
2	"	昨年同月比	約31%減
3	本年度売上数量	昨年対比	約29%減
4.	原因・現状		

昨年は、住宅除染工事の出荷が多かったが、今年は、樹園地・道路及び排水路除染工事の主となり、碎石は使わない為、約3割減となった。

<生コン>

平成28年11月の組合員生コン出荷数量は、171,433m³と対前年同月比1.9%減。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比2.0%減、官公需が15.1%減であった。

○民需の動向

対前年同月比 2.0%減

対前年同月比増加地区

<県北地区> 23.3%増 市内総合病院新築工事、工場建築工事等

<いわき地区> 1.6%増 ショッピングモール新設工事、小名浜SS(セメント基地)建設工事等

<相双地区> 13.7%増 第一原発固体廃棄物貯蔵庫、ロックウール生産工場建設工事等

<会津地区> 14.0%増 マンション、老人福祉施設建設工事等

対前年同月比減少地区

<県中地区> 13.0%減 マンション新築工事、郡山スマートインター工事等

<白河地区> 47.9%減 工場倉庫増築工事等

○官公需の動向

対前年同月比 15.1%減

対前年同月比増加地区

<県北地区> 0.6%増 県警本部庁舎新築工事、東北中央道高架橋工事等

<白河地区> 6.7%増 千五沢ダム改築工事、ひらた清風中学校舎建設等

<会津地区> 23.3%増 城前団地建設工事、北四合河川護岸工事等

対前年同月比減少地区

<県中地区> 13.5%減 西部第一工場団地造成工事、ふくしま医療機器開発支援センター整備工事等

<いわき地区> 26.8%減 港湾災害復旧、市内公立病院新築工事等

<相双地区> 23.6%減 廃炉国際共同研究センター、楢葉町減容化処理施設建設等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<鉄工業>

昨年よりは少し受注が少ない。

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上高が前月比

で58%減、前年同月比においては64%の減と大きな落ち込みとなった。累計でも前年比で36%減と回復の兆しが見えない状態が続いている状況である。

<漆器>

百貨店も人の入りが悪く、物の動きがかなり鈍くなっている。漆器は、一般消費者の消費マインドに大きく影響を受けるため、増税以来の消費マインドの低下は、大きな打撃となっている。

卸売業

<卸売業>

(県北地区)

米穀の販売単価は昨年より上がり、売上高は増えた。

<再生資源>

古紙の市中回収は、依然として減少が続いている。これから年末に向け、市中回収量の増加に期待している。鉄スクラップは電炉メーカーの炉前価格の値上げで、スクラップ購入は増加傾向である。為替の円安傾向も引き続き鉄スクラップ市況は強基調で推移している。

小売業

<共同店舗>

(県中地区のOショッピングセンター)

全体として売上、来店客ともに若干の伸びを示すが、景気の先行き不安が影を落としている感がある。師走の商戦に期待する。

(県南地区のNショッピングセンター)

地域内の不況感が増している気がする。顧客の買上げは、横ばいからやや弱い感じがする。

<石油>

11月、米穀大統領選挙の影響により、為替が円安となり原油輸入コストが上昇している。これにより、元売各社も11月中旬以降、仕切価格の値上げを実施した。加えて、灯油シーズンを迎え、例年より早めの寒波の影響で灯油価格が上昇している。

<青果>

前月から引き続き、会津身不知柿の取扱があり、入荷数の減少から価格が高騰した結果、取扱の額を増加することができた。また、野菜においても部分的な単価の高騰が継続している。来月においては、みかん、りんごの取扱もあり、年末までに取扱が増加するよう期待したい。

商店街

<福島市>

良くも悪くも震災前に戻った、と言える。交通量も通行者数もぽっかりと穴が空いたように街なかは閑散としている。12月に期待したいところではあるが、今年は厳しさが予想される。

<郡山市>

今日は寒さと強風に見舞われて、商店街の集客に大きく響いたよう。客数・売上とも伸びず、厳しい月であった。今年は長年空き店舗だった場所に新規店舗がオープンしたが、一方では商店街に昔からあった店舗が今年三軒閉店になり、空き店舗の減少はなかなか進まない状況。12月はお歳暮やクリスマスシーズンで商店街にとっては賑わう月にならなくてはいけないのだが、見通しはなかなか明るくならないよう。

<南相馬市>

市商店連合会主催で年末大売出しが開始されている。内容は現金が当たる三角スピードくじで恒例の企画となっている。栄町の参加店も多く歳末らしくのぼり旗ポスターで賑やかさを演出している。また、恒例の「栄町ナイトバザール」も25年目300回を数え、記念行事を12月17日(土)に実施する予定。多くの人々の参加に期待。

<会津若松市>

初雪も降り寒暖の差が激しい月で、気温が低い日は来客が落ちた。冬物商品の売り上げにつなげたいが、難しい月だった。今年は前年と違い例年通りの降雪量になりそうだ。来月の年末商戦に期待したい。

<いわき市>

11月の前半は気温も低く、寒い日が続いたため、冬物を求めるお客様で良いスタートが切れたが、月半ばから急激に街を歩く方も減り、売上も前年割れへと急落。めずらしく飲食店も厳しい月であったようだ。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

紅葉シーズンは例年より早めに終わってしまったが、11月いっぱいはそのそこの観光客の入込であった。ただ、平日と週末の差が激しく、持続的な観光地を維持していくためには、コンスタントにお客様が訪れる仕掛けづくりが必要である。大型の公衆浴場工事が開始され、平成30年の4月頃にはオープンするのでそれを契機にポテンシャルのあるまちづくりをしていきたい。

<理容業>

大きな変化もなく例年通りの状況だった。月末には急に寒くなり客足も止まった。急な気温の変化があるといつものことだ。12月は1年の中でも一番忙しい月なので期待している。これから忘年会等もあるのでオシャレメニューを提案し、売上増につなげたい。厳しい経営環境の中で例年通りの状況であれば良い方だろう。前向きに努力したい。

<美容業>

気温の高低差があり、消費者の客足の上下があった分売上げが伸びなかった。これから年末に向けて前月の減少した売上と暮れの髪のお手入れで伸びると予想されるが、やはり雪の影響が出なければ良い結果になると思われる。パーマ客増が鍵。

<一般廃棄物収集運搬>

通常業務については前月実績でほぼ同額の売り上げで推移している。産業廃棄物に関しては依然として排出量は震災前の水準には届かず、しばらくは増加することはないと思われる。雇用については組合員各社で人材の確保に苦慮している。

建設業

<建設業>

(県南地区)

建築工事の減少が続いており、現場代理人は手持ち工事がなくなってきている。土木工事は若干発注があるが件数は多くない。除染は完了に近づいている。

<管工事>

前月比で給水・排水設備申請とも減少。前年同月累

計対比で、給水設備申請が増加し、排水設備申請は減少している。

<専門工事>

全体的には急激に悪化するわけでもなければ好転するわけでもなく、淡々と業務をこなしているという感があるが、県外では除染の下請け業者が巨額倒産するなど、復興バブルの終焉がうかがわれる状況が発生しつつある。県内においても、除染作業を行っていた業者が仕事を探していたりする一方で、復興事業に代わる事業が見当たらないなど先行きが見えない状態が続いており、全体的にはムードが低調になっているのが否めない。アメリカ大統領選挙の番狂わせや韓国大統領の弾劾問題など、国際的には非常に揺れている感の否めない月であったが、それもこれも今の時代と言う

ものの表れと考えるならば、私たち自らが意識を大きく変えなければならぬのではないかと感じている。

運輸業

<トラック団地>

(県北地区)

今年の当組合員の受注面、収益面、人事面は比較的安定しており、穏やかな新年を迎えることができる見通しである。

(県中地区)

11月は前年同月比で輸送量が大きく伸びた。

<ハイヤータクシー>

例年より寒い日が多かったが、あまり動きには反映されなかった。